



# 社会教育 アドバイザー通信

第 6 号  
平成 26 年 1 月 1 日 2 日  
発行 秋田県教育委員会  
編集 南教育事務所

師走も半ばとなり、まもなく年の瀬を迎えようとしています。今年も駆け足で過ぎ去り、1年の締めくくりの時期になりました。また、これまでの歩みを振り返り、成果と課題を確かめる時期でもあります。南の社会教育の合い言葉は、「双方向の連携で、地域も元気に、学校も元気に」ですが、秋から冬にかけて行われた主な事業について、「連携」「元気」の観点で振り返りながら紹介したいと思います。

## 学校・家庭・地域連携総合推進事業 第3回県南地区指導者等研修会

[平成 26 年 10 月 29 日 於；横手市浅舞公民館]

放課後子どもプランとわくわく土曜教室推進事業に関わる指導者等を対象に、日常の指導技術の向上や子ども理解を深めることにより、指導者等の資質向上に資する研修会が開かれました。

受講者の希望をもとに、しおりづくり教室、折り紙教室、バルーンアート教室、リサイクル工作教室、俳句教室の5教室を設定し、2つ選択することができるようにしました。

どの教室も和気藹々とした雰囲気の中で楽しく創作活動に取り組み、次々に個性的な作品が生まれました。今後の活動に生きる有意義な研修会であったようです。

### 《アンケートより》

- ・センスの違いがでておもしろい。想像力が豊かになると思った。
- ・基本的な作り方は応用も考えられ、子どもたちに喜ばれると思った。
- ・出来上がった作品を誉められてうれしかった。子どもの作品を誉めるときの参考になった。

「俳句教室の作品より」  
お題「秋」

- ・軒先に揺れる干し柿待ち遠し
- ・酔いし頬紅葉並べて色くらべ
- ・紅葉舞い子どもと共にたわむれる
- ・急ぎ足りんご色付く帰り道
- ・素振りする我が子追い越す秋の風
- ・もみじゆれ雲の流れの速さかな

## ブックトーク研修会

[平成 26 年 11 月 4 日 於；横手市立中央図書館]



横手市の図書館関係職員30名が一堂に会し、県立図書館出前講座ブックトーク合同研修会が開かれました。昨年度から、毎月1回、月初日を合同での職員会議や研修会にあてているということであり、研修会は和やかな雰囲気の中で行われました。

前半はブックトークの講義、後半は5名ずつ6グループに分かれてワークショップ形式で進められました。講師から指示が出されると、即座に階下に移動する班、その場で話し合いに入る班と、それぞれに作業が進められました。「新たなジャンルの本に対する興味を引き出す」「普段手に取られにくい本の利用につながる」「著者やテーマへの関心をもたせる」というブックトークのねらいを念頭に置きながら、コンピュータで検索したり、書架から探し出したりして、シナリオづくりに余念がありません。

それぞれの経験から必要な図書を即座に探しあて、話し合いを深めている姿には感心させられました。

創作活動は、楽しさが子どもに伝わり、それぞれの個性を生かすことができる研修となり、ブックトークは、読書好きな子どもを育てるとともに、子どもや地域に元気を与えるきっかけになったと感じました。また、どちらも、関係職員同士が活動を通して「つながり」を深め合うことができたのではないかと思います。

## ビブリオバトル高校生県南大会

[平成26年11月8日 於；美郷町学友館]



県南初の高校生によるビブリオバトルは、六郷高校生4名、湯沢翔北高校生3名の計7名によって行われました。各自お勧めの本のよさについて持ち時間5分をフルに生かして熱弁をふるい、個性的なパフォーマンスが繰り広げられました。2分間の質問タイムも途切れることなく質問が出されるなど、会場は大いに盛り上がりました。最終的には、たくさんの得票数を集めた六郷高校の富岡光さんの「超訳般若心経」がチャンプ本に輝きました。

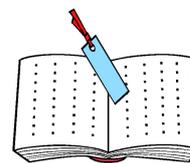
出場者の皆さんは、月平均20冊読んだり、同じ本を何回も繰り返し読んだりしており、心の底から本好きのようでした。「高校生の本離れ」の傾向に一石を投じる役目を担ってくれており、心強さを感じました。

お勧めのフレーズに、どの本にも魅力を感じ、どれに1票を投じようか迷うほどでした。熱く語る高校生の真摯な姿に胸うたれたイベントであり、本に対する熱い思いが会場に広がったようでした。



### 《紹介された本》

「超訳般若心経」 「大人ドロップ」 「100歳の少年と12通の手紙」  
「さまよう刃」 「屋上ミサイル」 「天啓的異世界転生譚1」  
「すべてがFになる」



## 次世代につながる取組 … 地域に根ざした子どもたちの活躍

1カ月間盛り上がりを見せた第29回国民文化祭が閉幕しましたが、開催期間中、子どもたちが大人と共に頑張っている姿が各地で見られました。

一例を紹介すると、増田「蔵の日」に見物客で混雑する町並みの中、70名の増田中学校の生徒がボランティアとして参加し、25棟の蔵の前では笑顔で見物客の応対をしました。また、蔵の中でのミニコンサートも多くの人に感動を届けました。角館の町並みでは、角館中学校の生徒延べ80名が観光案内を行い、観光名所を地図で説明したり、現地まで付き添ったりしての丁寧な応対と案内が評判を呼びました。湯沢に集う音楽の祭典「楽器の響き」では、湯沢市出身の日本を代表するソリストと地元の特別吹奏楽団や特別合唱団と共演する中に、高校生も演奏に参加しました。聴衆として会場にいた子どもたちと共に演奏したり歌い合わせたりする喜びを肌で感じたのではないのでしょうか。

このような、国民文化祭の一翼を担うという貴重な体験は、子どもたちの自信となり、今後の子どもたちの活動に好影響を与えていくのだと思います。



〈案内役の増田中生〉



〈蔵でのミニコンサート〉



〈観光案内する角館中生〉

ビブリオバトルも国民文化祭も初めてのイベントでしたが、参加者のわくわく感と強い意気込みが感じられました。高校生の読書意欲は、参加者や地域の高校に波及することでしょうし、国民文化祭での地域に根ざした子どもたちの活躍は、地域の活性化に確かに結びつくと感じました。